（九日夕刊）
磐城新聞
休刊日　大祭第一第三日曜日
定價　壹ヶ月　五十錢　郵稅　拾錢
廣告料（雜報欄一行五十錢　場所指定二十錢増）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六番

客の心と女の心

平町　ほんま生

或る藝者が一人の男に戀をしたその男には金があつた、否、その男に金があつたのではなかつたが豪農の子息だつたから矢張り金があるのだつた、そしてその男はあれやこれやと理由を附けて。母親の手から自分の懐へ金が這入ると、酒や女を材料にしてうまく遊ぶことを覺わてゐた、だが、その男は如何にもブルジョア―氣取りで遊ぶなんと云ふことは知らなかつた。

ある日のこと藝者からその男へ手紙が來た。

男は藝者の手紙に驚いたそれは中に書いてある用件にではなくつて、田舎藝者としては珍しい程文章の上手なことに驚いたのだつたそればかりではなく、その藝者の氣象に一風變つてゐた、一旦思ひ詰めた男ならば火の中でもと云つたやうな――そうした態度に男はすつかり惚れ込んでしまつた。

も一人の藝者は「あんな男に惚れるなんて馬鹿々々しいわ」と仲間を嘲笑した

二人は永遠に離れないことを約束した、ある時は、二人で山に登つた後を男の家の者が心中でもしやしないかど心配して捜索したことなどもあつた。

男は何時の間にか、も一人の方の藝者をお座敷へ呼ぶやうになつてゐた、その藝者は、いやな男だと思つてゐたのだつたが、二回三回と接近してゐる中に、到頭その男の方に心が動いてゐた。

それから男はかわるがわるにお座敷をかけて、自分の天秤に乗つてゐる二人の戀の舞踊を眺めてゐた。

ある夜のこと男は二人を一緒にお座敷へ呼んで、二人の藝者の止めどもない涙に當惑したが、そうした甘い悲劇にもまた、陶醉しやうとした。

「君、君達！そう泣いたつて譯が判らないじゃないか？惚れたら惚れたと言へばいゝさ、そしてあくまでも眞劍になればそれでいゝんだ」

藝者は互に其の男を完全に自分のものにしようと競爭しはじめたのだつたそれから二人の藝者は犬と猿のやうな生活を續けてゐた。

元々そう性の悪い男ではなかつたから、男はそんな遊びも厭いて反省しなければならなかつた、そして考へるのであつた。

「これが人生のなんであらう？僕の現在の立場から、眞面な戀なんて考へられないことだ、けれども僕は女なくて生きてられないとすると最も無難な接近し易いのは、矢張りあいつ等階級の女より外にはない、しかしそれがなんになるんだらう。僕にはもつと成さなければならないことがあつたのだ、それにしても兄貴は僕の要求を入れては呉れなかつたのだ、中學を終ると僕の大學への希望を兄貴はこばんだのだ、假りに今此處で財産を分けて貰ふとする、そうすれやあ僕はその番人になる譯なんだがそれ位人間として味のない生活もありやしない、この世の中に財産の番人でくらす人々が澤山あるのだとするとなさけない譯であるがそれ等の人々が最も權利があるんだからやり切れない僕だつて若しも金がなかつたらあいつ等とうまく遊ぶことも出來なかつたのだ」

磐新顧問

（照合を觀迎す）

小學教員を志願したい　小學校教員及び中等教員の檢定試驗を受けますのにはどんな手續が必要でありますか申込の場所並に手續をお敎へ下さい（獨學する子）

小學校教員の檢定試驗は年は二回執行します、それに高正、尋正、專科、尋準等の種類がありまして希望者は檢定料を附し町村長を經て知事に願出てます、中等教員の方は文部省が主催して年二回の檢定試驗があります願書は試驗執行地知事を經て文部大臣宛願書を提出するのです

限定相續後の　債務者死後後繼者は限定相續をしました、此場合の債務は次男名義の不動産にも及ぶでありませうか（竹內）

眞の所有權は何人にあつたかが問題です、假令名義は次男となつてゐても眞實の所有權は債務者にあつたのならば債務者の財産として計上しなければなりませぬ、之に反して名實共に次男の財産に相違なくば、債務者の債務の爲めに何等の影響を受けませぬ

所有の株式を　某銀行の株式二十株許り持つて居ますが、今回妻と、長男へ讓り渡しの形式で名義を變更したいと思ひますが、差支へないでせうか其手續を御敎へ下さい（城南生）

あなたに債務でもあつて其の差押へを免れんとするやうな目的でもあるのならば、後日問題を起さないとも限りませぬが、其樣な事情もないのならば何等差支へはありませぬ、其手續は會社に申出て名義の書換をしてお貰ひなされればよい。

明日の吉凶

五月　舊暦十一日
六月　新暦十日

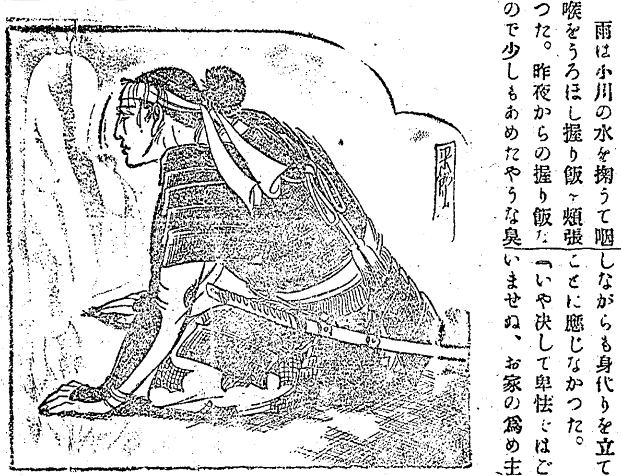
▲一白　內に在りて怠りなくば福德自ら外より來る▲二黑　思はざる引立てに逢ふことあり但し口舌注意▲三碧　輕卒に走りて思はざる失敗を招く事ある日▲四綠　困難多く容易に安全の域に入り難き注意日▲五黃　進むに吉しき日此日の企業は永久に榮べし▲六白　柔順にして目上の言を尊重すれば引立に逢ふ▲七赤　無理を行ふ時は後日その反動大に來るべし▲八白　この日小さく始めし業は後日大となるべし▲九紫　內も外も穩かならぬ日常業に忠實たるべし

講談

血で血を洗ふ

（57）

高橋掬太郎創作
布施平八郎挿畫



身代り役

雨は小川の水を掬うて咽喉をうるほし握り飯を頰張つた。昨夜からの握り飯なので少しあめたやうな臭ひがしたが空腹なので苦にならなかつた。

「さあ、腹も滿たされた。そろ〳〵出かけやう」

と成昌が起ちあがつた

「主君――」清水八郎が呼んだ

「何んぢや？」

「主君にお願ひがございます」

「願ひがある――何事か云ふてみい」

「余の儀ではございませぬが御着用の御鎧を拜借致したう存じまする」

「ナニ此の鎧を貸せと云ふのか如何致す考へぢや」

成昌は合點のゆかぬ面であつた。

「實はもう人里の方へ出ねばなるまいと存じまするがそれには如何なる事があらうとも知れませぬ。ついて主君のお身体に萬一の大事のないやうにお身代りになつて參り度ふ存じまする」

清水八郎は誠實を面に現はして云つた。

「うむ余の身に危險のないやうに身代りになつてくれると申すか八郎余は辱く思ふぞよ」

思わず八郎の忠心に感激して成昌は八郎の手をしかと握りしめた。

「何卒お許しが願ひ度ふ存じまする」

「いや其方の忠は辱けないが余も本間成昌ぢや身代りに家來を殺して生き延びるやうな卑怯は致したうない死なば諸共ぢや。安じるでないぞ」

と成昌は八郎の心に感謝しながらも身代りを立てることに應じなかつた。

「いや決して卑怯とはございませぬ、お家の爲め主君のお身体は何物にも替へがたいものでございます。石出氏が主君の討死遊されると云ふのをお諫め申したのも我々が惜しからぬ命を永らへて戰場を逃れましたのもみな主君のお身を案じお家の將來を思へばでございます。若し主君の御身に途中で大事があつては石出氏を初め戰場に踏みとどまつた人達の折角の心も無になります。また我々も戰場に屍を晒した人々に對し申譯がありませぬ。何卒此の點を御賢察遊されて御承知の程を願はしう存じまする」

暗がりの中とて面こそよく見わね赤心はその言葉に現れて成昌の胸を打つた。

「あゝそれ程までに思ふてくれるか其の方等の忠義には篤い志感謝の辭がない。然らば何事も其方達の意に任せることに致さう」

と成昌は涙を流して打ち喜んで鎧を解いた。

「御承知下され有難く存じまする」

と身代りになつて死ぬのを喜ぶ忠臣成昌の解いた本間家重代の緋おどしの鎧に鍬形打つたる二つ星の兜を押し頂いた清水八郎が我が帶を解いて黒糸おどしの大鎧を脱がうとした時

「清水氏お待ち下され」

と聲をかけたのは附添ふ勇士の一人近習役で花田數馬之助昌行であつた。

「お花田氏か何んでござる」

「實はその御鎧拙者がお借り申したう存じまする」

數馬之助は前へ進んで云つた

「いやそれはいかぬ。お身代りになつて死ぬるは武士の名譽それ故に御身も望まれるのであらうが主君を思ふ心はみな一つ何も手柄を爭ふことはござるまい。お讓りしてもよいが他の方も同樣に望まれては却つて困るに依つて第一に云ひ出した拙者がお借することに致さう」

と八郎はなだめるやうに云つた。

「いや拙者は功名心から申上げるのではござらぬ。實は斯様でござる」

と數馬之助は成昌の方を向いた。

廣告

平町南町
上田外科醫院
電話一二九番

平町田町通り
磐城病院
電話一一四番

ちのくすり
御需めの方は
平白銀町
吉田新聞店へ
電話四十八

勇往邁進豪氣堂々三大映畫提供
說明……石井、佐藤、谷、小林、南
伴奏……石川、淺田、王江、安部、佐藤
番外喜劇　千金の夢　全二巻
弘道館四段特別角力選手　淺岡信夫　主演
學生角力大活劇　勝利の前に　全六巻
岡田嘉子、辻峯子……助演
大佛次郎原作　河部五郎主演
第二回　照る日曇る日　八巻
大河內傳次郎　櫻木梅子　川上彌生　澤村春子　助演
水產講習所出身スポーツ　廣源恒美　主演
海洋大活劇　海國男兒　全八巻
砂田駒子、高木永二……助演
六月九日ヨリ映畫御案內　平館

生殖機能衰弱を歎く人　旺盛を欲する人に
エキスピン
何でもいはれぬ人間味
◇どうも頭がボンヤリする方
◇老衰を恐怖する方
◇夜良く寢むれぬ方
◇精力減退の方
定價　金五圓・十圓・廿圓
發賣元　東京芝區宇田川　東京ラヂオレーヤー株式會社藥品部
一手販賣元　平町田町　宇佐美藥局　電話五五一番

三百年の古い歴史と他の模擬の出來ない獨特の芳香と色澤を有つ
ヒゲタ醬油
釀造元　銚子醬油株式會社
特約店　平町田町　廣瀨支店　電話五四番

◇あの赤鑵の◇
ホシ胃腸藥
健康　活躍　勝利
勝利、その輝かしき名は、活躍する人にのみ許されます。
活躍、その勇ましき名は健康なる人にのみ許されます。
健康を得るには先づ胃腸を健全にしなければなりません。
胃腸を健全にするために、ホシ胃腸藥をお用ひなさい。
東京大崎　星製藥株式會社

年々殖えてゆく

平署管内の傳患

死亡率も相當に多く

各町村必死豫防

夏季に入つて惡性な傳染病が蔓延する頃となつたが各町村が例年必死となつて豫防方法を講じてゐるが傳染病は年々増加の傾向を示してゐる、即ち平警察署管内四町十八ヶ村に於ける去る十四年以降の傳染病患者數を見ると

△赤痢十四年度は九名中死三名十五年度は六名中死亡二名チブスは十四年度百四十八名中死亡十三名十五年度百四十六名中十九名死亡△パラチブス十四年度十四名で中死亡二名十五年度二十名中死亡二名△猩紅熱十四年中二名十五年八名で△ヂフテリヤ十四年度に百十九名中死亡五名十五年度百十七名中死亡二十八名であるが

更らに十五年度に於いては流行性腦脊髄膜炎一名發生死亡してゐるため傳染病發生總數は十四年度二百九十二名、死亡二十三名であるが十五年度に於いては二百九十八名で中死亡五十二名即ち發生に於ては六名死亡は二倍以上と言ふ割合である以上の様に各種傳染病患者が蔓延するのは毎年申合せた様に梅雨時から夏季にかけて一番多く殊に今年の如く初春から不順な天候に祟られたためか各種傳染病の發生數驚くべき程の數字を示してゐる今昨年同期中までの發生數を比較して見れば

△十五年中に赤痢一名△チブス三名△パラチブス五名△猩紅熱三名△ヂフテリヤ五名計九十六名に對し今年は△赤痢四名△チブス四十二名△パラチブス三名△猩紅熱三名△ヂフテリヤ五十名計百二名で既に本日までに六名の大増加を示してゐる狀態で

此れからの梅雨期を前に各町村は平署と協力各種傳染病の徹底的豫防をする筈である

去年の旱天が祟り

小作米未納多し

輕い反抗氣分もある

郡下の小作現況

石城郡下の小作米及び小作料は舊年末限り納入となつてゐるが、昨年は凶作だつた關係からまだ不納が二割餘もあり、地主對小作人間にごた〳〵を續けてゐるむきが少くないが、大体

同地方の小作慣行は大部分反單位で水田は九分通り米納あとの一分が金納畑は七分が金納三分は米または雜穀納となつて居り、量もコンスタントで大体が一定してゐる、もつともまづきの天水は檢見小作し即ち收穫の割合で納入してゐるので今なほ不納でごた〳〵してゐるのは昨夏の旱てりが收穫皆無、または半減したゝめであるが、定額は水田が平均反當り九斗八升、割合は

收穫高の　二分の一、高いのには一石二、三斗、安いのには五、六斗等も見受けられる、畑は區分ではあるもの〻大体七、八月から十五、六円ごく安いのには三、四円といふのもあり平均十二円内外となつてゐる、各村とも同様今日まで不納となつてゐるのは無論中流以下の農であるが、元來小作料は割合から云つて二毛作が立派にとれる土地と同様二分の一もとられるので

小作人は　極めて割が惡いのである、かうした意味からでもあらう最近小作人達は輕い反抗氣分を以て地主に當らんとしてゐる事は事實であるものの如くである

賤しき身を恥ぢて

人妻覺悟の縊死

元娼妓上りの女が

坑夫長屋の悲話

好間村大字北好間小田炭礦長屋居住支柱夫脇谷幸三郎内縁の妻岩瀬郡仁井田村字滑川生れ佐久間トミ(二九)は八日午後九時頃家人の留守を見濟し居宅臺所の梁に細紐をかけて覺悟の

縊死を遂げたのを程經て歸宅した夫幸三郎が發見大騒となり平署から佐藤部長出張檢視を遂げたがトミは約四十日ばかり前に世話する人があり幸三郎の處に嫁し夫婦仲も好く姑や家人との折合なぞも至極圓滿で他所目からさい羨まれる程でトミが自殺を遂げるに至つた原因に就き同人から夫幸三郎に宛てた遺書に依ればトミは廿一才の頃實家の

窮迫を救ふため仙臺市北一番町遊廓森口八十吉方に娼妓として身を沈め今春三月年期が明けて自宅に歸り其の後四月下旬幸三郎に嫁いだものであるが夫を始め家人が全部自分を親切にして呉れるため若し萬が一にも自分の素性を夫や家人に知られたら申譯けがないと心配して居た折柄去月中平町鎌田遊廓大豆樓に於いて娼妓とお客の心中事件があつた際同炭礦に來た

心中事件の讀賣號外を夫幸三郎が買求めて家人に讀み聞せてゐるのを洩れ聞き兩人に對する同情と過去の自分の身柄を思ひつめては心配が昂じ何時かは必す現在の幸福が破れるよりは幸福である今のうちに自殺した方がよいと淺敢果な女心から遂に前記の如き始末に及んだものであると

鎗と鐵砲

（投書歡迎）

瞬間の處女

何家の何子ツテいふ藝妓らしいが、仙臺樣をふつた高尾とか新田町にもあるとかと大變な鼻息だそのあげ句モダーンガールと自稱してゐるんだからヅーヅーしさにあきれる。モダーンガールとは……だ一席数へてやらうか。

モダーンガールとはもう旦那があると讀むんだよ。誰だかは毛斷孃といつてゐたが、藝妓共のモダーンガールはもう旦那があるといふ方がシツクりあてはまつてゐるこれでたくさんだ。高尾がどうのといつたつてもう旦那がある以上駄目ぢやらう。旦那があつたから仙臺樣をふつたとでもいふか

この頃瞬間處女といふ言葉がはやるさうだ、何でもその時さへすぎれば處女といふんださうだ。新田町處女といふ言葉が昨年のいつ頃か流行つてゐたが、瞬間處女はそれ以上だらう。高尾がどうのなどと偉さうにいふ女に限つて瞬間處女の標本の一つだらうて。

藝者は社交上になくてならんとはいふが、なくつたつて間に合ふよ。必要にしてしまつたからなくてならないだけで必要にしてしまつた原因はつまらぬことだから簡單に除去出來るから藝妓なんぞなくつても間に合ふよ。

イエスオーライ連中と一しよくたにして貰ひたくない御心中を御察し申す。だがあから樣にやるのと瞬間處女の看板をかけるだけの差だからそれも止むを得ないぢやありませんか。何家の何子樣かしらんが高尾のどうのとおつしやるひまにもう旦那があるといふことを御考へになることが肝心肝心。

（城山の雀投）

有段者會の

役員顔觸

十二日發會式

石城、双葉、相馬の三郡在住者にして講道館有段者よりなる磐城講道館有段者會發會式は來る十二日午前十一時より平劇場に於て擧行する事に決定した旨既報の如くであるが同會の役員氏名左の如し

（會長）諸橋守次（副會長）橋本芳太郎（幹事）加藤丈夫、中野康平、齊藤覺、武川信夫、小野仁一（兼會計主事）關内正一（審議員）四段橋本芳太郎　四段齋藤譯　四段片寄政直　四段齋昌秀　三段岡田朝五郎　三段牛來不二夫、三段鈴木末治郎　三段鈴木寅之丞　三段長谷川直次郎（兼幹事）三段青天目源一郎（顧問）五段牛久孝四郎（五段）鷹崎正見

平驛前に

米の受驗場

今月末開設

平町から他地方に移出する俵米は從來平驛貨物ホームに於て移出檢査を出つて居たのであるが種々な不便が伴ひその上管理上にも不便が尠くないので平町米穀商組合では今春これが前後處置について考究した結果同驛ホーム入れ口に共同移出米受驗場を設置することに決定種々準備中であつたが敷地借り受けについて町當局との間に諒解も出來たので本月末建坪約十坪五合平屋建の受驗場を設置する筈で從來の不便を一掃する事が出來る

蓮沼氏千葉へ

本社副社長蓮沼龍輔氏は去る六日午前五時平發にて上京千葉縣野田町を經て二三日中に歸社の筈

智識階級者間に

亂暴事件が多い

今年既に五百件を超いた

平署の捕物帳

平署管内で今春以來五月末日までに發生した各種犯罪件數及び其の檢擧數は犯罪件數實に五百三十七件に達し一日平均約四件と言ふ眞に驚くべき數字を示し

檢擧數は　五百三件で此れまた非常な好成績を示してゐる即ち内譯を見れば犯罪件數中殺人二件、强盜一件、竊盜百五十七件、詐欺百九件、横領三十七件、賭博三十一件、傷害五十七件其の他百四十三件と言ふ割合で犯罪件數中竊盜が首位を占め驚くべきは昭和の聖代に於て非文明な暴力其の他傷害强盜等の殺伐極る犯罪が急激な地方文化に

反比例して増加する事で當地方は炭礦その他の關係から勞働者數が多いため前記の様に殺伐な事件が續出するばかりでなく一般から見ても幾分他地方に比して殺伐な氣分が横溢してゐる事は事實で前記傷害事件中其の半數は勞働者以外の比較的有識階級を目されてゐる人々の間に惹起された事件であると言ふ

東京仙臺間を

平中心に直通

四十万圓の豫算で

電話改善に着工

平郵便局に於ける久しい間の懸案であつた仙臺及東京への直通電話申請の件に就ては其後平局に於て其實狀を調査中なりしが之れを必要と認めたので平局の申請に基き東京仙臺同共直通線として本年中に實施される筈になつたが實施の爲要する總工費は約四十萬圓の巨額に達するので豫算の關係上直に實施されるや否やは疑問であるが結局實施される事となつたのは確實であるから之れが實施の曉は從來の如く東京へは水戸で仙臺へは福島で中繼された爲め意外の長時間を要する樣な不便を感じてゐた事は一掃されるから管内加入者の之れに依る福音は絶大なものとなるであらうと

松竹蒲田映畫　押本映治主演『國境の唄』蔦見丈夫監督、田中絹代外　寫眞は押本映治の愛人ーー

カフエー『ハルサメ』の蔦江と一馬とは或日斯んな會話を交した：…當分お別れだわね……待つと長いけれど二年なんか何でも無いよ少しの間だ辛抱してお呉れ……斯うして二人は別れた、一馬は遠く朝鮮の地へ國境警備の兵として行くのだつた、愛人を待つ蔦江の心は何うか？、僅く一馬は馬賊と格鬪し不幸敵彈に斃れた、其間朝鮮娘桃花とのローマンスは何うなるか？。――蒲田最初の軍事劇――

磐城沖近く

鰹の大群

磐城丸の活動

縣水産試驗場の磐城丸は七日午後五時頃銚子沖南東八海里の海區でかつをの大群に遭遇したが餌つきの不良のため百餘尾を釣獲したに過ぎなかつた旨八日朝無電で小名濱に通知があつたが一兩日中には大漁の見込みであると

植田下水道

近く工事着手

石城郡植田町では下水の排水が惡く非衛生なので町會で協議の結果工費六千圓で中央南西に大下水道を造る事に決した

本郡下で一ヶ年

酒造米二萬石

年々一割五分の増加

飲酒家激増の證

石城郡地方は炭礦漁村等を控へてゐる關係からか酒の消費量は縣内のいづれよりも多く酒造家が昨年酒税の値上を理由として値上を行つたに拘らず依然として消費量は縣下最高を占めてゐるが同郡内で毎年酒になる米は年によつて多少の相違はあるが平均二萬石近く昨年の如きも一萬九千七百餘石をがエキスとなつてゐるつぶされる米の量は年々一割五分强の増加を示してゐる、これ等はいかに年々愛飲家が増加しつゝあるかを如實に物語つてゐる

かみそり

◆統計によると平町には女が男より多いとの事だが、俺の方にはチツトも廻つてこない、ナニサ一人で二人も三人も女を所有してるのが居るんだもの、ナカ〳〵俺ッ達ち迄た鉢の廻りつこはないよ◆オイなんだつて肌拔ぎになるんだい、ナニ二の腕のアザを見て呉れつて「アザになる程つねつて呉れあとで惚氣の種にする」其の邊をウンとつねつて色上げして呉れないかナニ言つてやがる「アザになる程つねつて見たが色が黒いので目につかぬ」だ

野崎氏長逝

葬儀は十二日執行

小名濱町漁業組合長野崎才助氏は狹心症を病み本年春以來治療中の處藥石効なく今九日午前六時遂に永逝した、享年四十二才氏は町會議員、小名濱水産會社々長、磐城水産工業會社、磐城海岸軌道會社監査役等の榮職にあり春秋に富む有爲の士で非常に惜まれてゐるが右の仆報を傳へ乍ら同町縣議小野晋平氏は『故人が漁業に貢獻した事は獨り當町の爲めのみならず實に本邦斯界の雄者であつた、殊に漁港問題その他當町の公的事業に盡された事は人の克く知る所で故人の後半生は全く町の爲に活動を續けられて來た今や漁港が第二種商港として指定される時に臨んで氏を喪つた事は當町の大なる損失として遺憾に耐へない』と暗然たる面持であつた、因に葬儀は來る十二日午後二時同町淨光院に於て佛式で執行する筈

大野、大浦の

堺喧嘩

四倉署長調停

石城郡大野村と大浦村の兩村は共同所有の鹽ヶ堰改修上から紛擾を來し目下植付期を控へて盛んに騷ぎ立てゝゐるが、之は感心せぬことだと此の程水谷四倉署長が調停に入つたから今明日中に圓滿解決を見ることであらう

時言

純理を解く公正な理由なしには、幾回の大會も決議も何等の効なし、辭職の勸告なぞ遙かに隔靴搔痒の感あり

□

若し積極的に町民の意志を試みんとせば虱つぶしに連判狀を取つて示せ、八百長式町民大會が齎らす天降りの決議、素よりの何の價値かある

□

町村の衛生費は年々に嵩み傳染病患者は年々に増加す、之らぐらい割に合はない話はない、當局の緊褌一番を望む

□

坑夫の女房が愛の夫を欺むくに忍びず、自身の素性を恥じて縊殺す、何といふしほらしさだ

良品廉賣に勝る商略なし

磐城平町五丁目

磐城セメント株式會社特約代理店

和洋銅鐵金物問屋

（久）釜屋商店

諸橋久太郎

電話　九番　一三九番

振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は（久）の生命なり

運動のシーズン

御忘無　旅行に遠足に示時正確な時計を

新緑の晩春に

蓄音器とレコード

之有て一家益々團欒

平町四丁目

會田時計店

電話　三六三

◎開始◎

柳川

御一人前　四拾錢

出前迅速

本年も相變らす

御贔負の程願ひます

牛肉御料理

石川亭

平町田町（電話四三番）

齒科口腔一般

診療時間（午前七時ヨリ午後八時マデ）

但シ急患ハ此限リニアラズ

平町南町成田山前

鈴木齒科醫院

齒科醫　鈴木五郎

登録商標

釀造元

福島縣平町

山崎合名會社

電話（營業部一〇番　釀造工場長二七番）

振替東京一九七五五番

東京支店

上野車坂町四三

電話長下谷五七二二番

振替東京六八三二二番